



会 告

農業土木学会誌の愛称が「水土の知」となります！74

平成 19 年度農業土木学会大会講演会の開催について（第 1 報）74

平成 18 年度第 9 回中央講習会「農業・農村分野の展開方向 環境・資源・生態系の保全・創出とその課題」74

平成 18 年度「研究グループ」の助成申請の認定について75

平成 18 年度「競争的資金申請」の助成申請の認定について75

農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い.....75


学会誌掲載報文等による通信教育について.....76


国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について.....76


国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと編集事務局（投稿先）の韓国移転のお知らせ...77


農業土木学会誌への投稿お待ちしております！.....78

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!! 「水土の知（農業土木学会誌）」平成 20 年秋季～冬季の表紙写真の募集.....78

北海道支部講習会の開催について（第 2 報）79

第 30 回関東支部地方講習会および平成 18 年度支部研修会の開催について 79

平成 18 年度京都支部研修会・地方講習会の開催について（第 2 報）80

第 44 回材料施工研究部会シンポジウムの開催について（第 2 報）81


岡山大学「環境科学技術シンポジウム」の開催について.....82






農業土木学会論文集第 246 号内容紹介.....83

学会記事87

農業土木学会行事の計画

農業土木学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちいたしております。

 のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 19 年 1 月 31 日	関東支部	地方講習会および支部研修会 	土地改良事業計画設計基準・設計「ポンプ場」の改定について、植物による環境修復（ファイトレメディエーション技術開発の現状と今後の展望）	さいたま市 埼玉教育会館	74 巻 12 号
平成 19 年 2 月 1 日	北海道支部	講習会 	ポンプ場の設計、農業農村整備事業における環境調和と景觀配慮（仮）	北海道大学 学術交流会館	74 巻 11 号, 12 号
平成 19 年 2 月 28 日	行事企画委員会	平成 18 年度第 9 回中央講習会 	農業・農村分野の展開方向 環境・資源・生態系の保全・ 創出とその課題	東京大学弥生講堂一条ホール	74 巻 12 号
平成 19 年 2 月 1～2 日	京都支部	研修会，地方講習会 		金沢市石川県文教会館	74 巻 11 号, 12 号
平成 19 年 2 月 2 日	材料施工研究部会	第 44 回シンポジウム 	土地改良施設の非破壊検査・調査と試験	神戸市兵庫 県中央労働センター	74 巻 11 号, 12 号
平成 19 年 8 月 28～31 日	大会運営委員会	平成 19 年度農業土木学会大会講演会 		島根大会	74 巻 12 号

第 75 巻 1 号予定

展望：沢田 敏男

小特集：水土の知

「水土の知」の定礎 その経緯と「知」の骨子：黒田 正治

水・物質循環に関して：中曽根 英雄

持続的かつ安定的な農業をグローバルに考える：佐藤 洋平

水土を機能させる農村：小前 隆美

「水土の知」の国際化：八丁 信正

技術リポート

北海道支部：中里頭首工における高強度コンクリートの施工：青木 龍太郎他

東北支部：「防災機能」を考慮した圃場整備の施工事例について：寺木領他

関東支部：生態系に配慮した谷津田の圃場整備について：増田 康則

京都支部：超高強度繊維補強コンクリートパネルによる水路トンネル補修事例：松岡 彰博他

中国四国支部：鋼 2 主桁複合ラーメン橋の施工について：金田 道憲

九州支部：地すべり区域内を通るバイパスの安全性の検討：松田貢一他

講座：水土文化への誘い（その 11）水土文化を活かす 3：渡辺 一哉他

小講座：社会実験：広瀬 伸

私のビジョン：時間との戦い：宇波 耕一

論文をかたる：発想の転換：近藤 文義

農業土木学会誌の愛称が「水土の知」となります！

農業土木学会誌編集委員会



学会誌編集委員会では、75巻1号より、学会誌の表紙に「水土の知」という題字を付し、装いも新たに学会誌を発行する運びとなりました。すでに、学会の名称も「農業農村工学会」に改称する(正式な改称時期は未定です)ことにもなっておりますことから、学会誌に愛称を付することは優れて時宜に適ったものであり、学会名の改称とともに、これらは、80年に垂んとする永い歴史に培われてきた農業土木学会にとって、新たな飛躍への第一歩になるものと期待されます。また、愛称を

使用することで、学会誌が会員諸氏にとってより身近で、より親しみやすいものになることが期待されます。

ご承知の通り、「水土の知」という言葉は、平成14年に策定されました“農業土木のビジョン”の中で示されたものです。農業土木が新たな展開を図る際の基本理念、さらには依拠すべきものの総体を的確に表現した言葉として、すでに、大方の会員諸氏においては周知のところですが、今後は、この言葉が、農業土木のネオ・パラダイムの原点を表象する寸言として、また農業土木を表す代名詞として広く内外に浸透し、定着していくことが望まれます。

平成19年度農業土木学会大会講演会の開催について(第1報)

平成19年度農業土木学会大会運営委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



平成19年度農業土木学会大会講演会は、宇都宮大会時に平成19年8月7日～10日開催予定としておりましたが、都合により下記のとおり変更して開催の予定となったのでお知らせ致します。

1. **開催期日** 平成19年8月28日(火)～31日(金)
2. **主会場** 島根大学キャンパス
〒690 8504 島根県松江市西川津町 1060

(JR松江駅から松江市営バス北循環内回り島根大学前下車、約15分)

3. **講演会** 平成19年8月28日(火)～30日(木)
 4. **交流会** 平成19年8月28日(火)
 5. **現地見学会** 平成19年8月31日(金)
- *詳細は、続報でお知らせいたします。

平成18年度 第9回中央講習会

農業・農村分野の展開方向 環境・資源・生態系の保全・創出とその課題 行事企画委員会

農業土木技術者継続教育認定プログラム



平成18年度中央講習会は、昨年に引き続き、農業・農村分野の新たな展開方向である、環境・資源・生態系の保全を中心に、本年度の各支部大会報告の中から、特に評価が高く、全国的なモデルになり得る地域の新たな取組について、最新の情報を発表致します。事例発表後に会場と発表者全員で意見交換を行います。奮ってご参加下さい。

記

1. **主催** 農業土木学会行事企画委員会
2. **期日** 平成19年2月28日(水)10:00～17:00
3. **場所** 東京大学弥生講堂一条ホール
東京都文京区弥生1-1-1(東京大学内)
<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/>
4. **プログラム(予定)**
開会挨拶
10:10～11:20 基調講演 農業・農村分野の展開方向(仮題)

京都大学 三野 徹

- | | | |
|-------------|------|----------|
| 11:20～12:00 | 講演 | 各支部からの報告 |
| 13:00～13:40 | 講演 | 〃 |
| 13:40～14:20 | 講演 | 〃 |
| 14:30～15:10 | 講演 | 〃 |
| 15:10～15:50 | 講演 | 〃 |
| 15:50～16:30 | 講演 | 〃 |
| 16:30～17:00 | 意見交換 | |
5. **参加費** 一般 4,000円, 会員 2,000円, 学生会員 1,000円
 6. **申込み・問合せ先**
参加申込書は学会HP(<http://www.jsidre.or.jp>)からダウンロードしてご利用下さい。
農業土木学会行事企画委員会担当宛
☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

平成 18 年度「研究グループ」の助成申請の認定について

研究委員会

申請のあった「研究グループ」の助成について、研究委員会の審査を経て理事会において、下記グループが助成対象に認定されました。

代表者 高松利恵子（北里大学獣医畜産学部）他 4 名

テーマ 温室効果ガス発生制御のための農業土木的対策技術

代表者 竹下 伸一（宮崎大学農学部）他 2 名

テーマ 水文観測データ不足地域の水文予測（PUB）のための衛星画像利用に関する基礎的研究

平成 18 年度「競争的資金申請」の助成申請の認定について

研究委員会・戦略的研究推進小委員会

申請のあった「競争的資金申請」の助成について、研究委員会・戦略的研究推進小委員会の審査を経て理事会において、下記のとおり助成対象に認定されました。

代表者 飯田 俊彰（山形大学農学部）他 4 名

テーマ 現場農地から大気への窒素フローの測定とその広域的推定

代表者 宮崎 毅（東京大学大学院農学生命科学研究科）他 5 名

テーマ 極限環境場における土の物質移動学の確立

代表者 松川 保則（日枝クラウン株式会社）他 3 名

テーマ 未利用植物資源の効果的増殖及び有効的活用方法に関する研究

代表者 山田 耕士（社団法人地域資源循環技術センター）他 1 名

テーマ 農畜産業系バイオマス利活用推進のための制度設計

なお、平成 19 年度募集については、本誌、来年 4 月号でお知らせする予定です。

農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い

農業土木学会災害対応特別委員会

農業土木学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害、学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方に事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿（2 年毎更新）に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は以下のとおりです。

調査団の団員は、高度な専門知識を有する農業土木学会員とする。

調査団員は、候補者名簿にリストアップされた者から選定する。

調査団の派遣期間は、原則 2～3 日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業土木学会が後日精算する（年度予算限度額 300 万円）。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局宛 FAX 03 3435 8494、E-mail saigai@jsidre.or.jp でお申込み下さい。様式は農業土木学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>）よりダウンロードし、お申込下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取扱います。

学会誌掲載報文等による通信教育について
農業土木学会行事企画委員会
農業土木技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育を11月より本格実施しております。是非、通信教育にご参加下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の学会会員で、かつCPD機構会員の方は、農業土木学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>)にある参加申込書に必要事項を記載してメール (E-mail: cpd@cpd.jsidre.or.jp)あるいはFAX(03 5777 2099)でお送り下さい。

これまで試行に参加いただいていた方は、改めてお申し込む必要はありません。

なお、この機会に農業土木学会、継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>)に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込みください。

2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

3. 事務局

事務局は、機構の評価委員会内部に設置する部会および機構事務局が担います。

4. 内容

問題は3カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回10問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に返信していただきます。

採点の結果、7割以上正解で1CPD、満点で1.5CPDが取得でき、機構会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

5. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会「国際水田・水環境工学会」(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)を設立、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2006年12月末にはVol.4 No.4が発行されます。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)

⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)

⑨ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)

⑩ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流、情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag社(ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000円/年/4冊(送料等学会負担)

学生会員(院生含む) 8,500円/年/4冊(送料等学会負担)

申込先: 農業土木学会編集出版部 馬目宛

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込みは、学会HP (<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>)の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたはFAXでお申込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 編集事務局（投稿先）の韓国移転のお知らせ

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会「国際水田・水環境工学会」(International Society of Paddy and Water Environment Engineering)を設立し、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2006年12月末にはVol 4 No 4が発刊されます。

我が国においても学術誌の評価に、SCI (Science Citation Index) のIF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界13カ国からEditor (14名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer Verlag社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りますが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

編集事務局の移転：2003年1月の学会設立以来、農業土木学会が編集事務局を担って参りましたが、2006年1月1日からは新Editor in Chief；中野芳輔九州大学教授の下、韓国農業工学会が今後3年間（～2008年12月31日まで）、編集事務局を担当することとなりました。

これに伴い、Editorial Panelの構成メンバー（編集体制）および新投稿先が下記ようになります。

ただし、2005年12月末までに投稿された原稿は、日本（農業土木学会）の責任において進められ、Acceptされたものが韓国事務局へ引き渡されることとなっております。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

新投稿先：PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG
International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES)

KOFST - Main Building # 205

635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703, Korea.

Tel : +82 2 562 3627, 562 3613 Fax : +82 2 565 6821

Email : sjhwang@konkuk.ac.kr, pawees@ksae.re.kr (will be made shortly)

(During Jan.2006 to Dec.2008)

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制 2006 .1 .1 ~ 2008 .12 .31)

• Editor in Chief : Prof. Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironment Sciences, Kyushu University, Japan

• Editors 13カ国から14名

• Editing Board 32名

• Managing Editors

Chief Managing Editor : Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

Dr. Yutaka MATSUNO

Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan

Dr. Masaru MIZOGUCHI

Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan

Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN), Kyoto, Japan

Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG

Department of Bioenvironmental System Engineering, National, Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

出版社：Springer Verlag社（ドイツ）

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等：http://www.jsidre.or.jpに詳細を記載しています。

農業土木学会誌への投稿お待ちしております！

農業土木学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。現在、掲載待ちの報文はなくなり、閲読が終了すれば、早期に掲載できる状況となりました。投稿の際には、農業土木学会ホームページ

に掲載の「農業土木学会誌投稿要項」、「農業土木学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌 75 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A 4 判 1,500 字 以 内)	原 稿 締 切 (刷 り 上 げ 4 ペ ー ジ 厳 守)
75 巻 1 号 「水土の知」について (仮)	公募なし	
2 号 国営第 1 号巨椋池干拓の歴史的意義	公募なし	
3 号 新潟県中越地震の復興対策と危機管理 () (仮)	公募終了	
4 号 " () (仮)	公募終了	平成 18 年 12 月 15 日
5 号		
6 号 大会関連	公募なし	平成 19 年 2 月 15 日
7 号 持続循環型農業農村技術開発 (仮)	平成 19 年 1 月 25 日	平成 19 年 3 月 15 日
8 号 農地・水・環境保全向上対策に向けて (仮)		平成 19 年 4 月 13 日
9 号 農地からの土壌流出及びその対策について (仮)	平成 19 年 3 月 23 日	平成 19 年 5 月 15 日

今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷り上げ 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4 (社) 農業土木学会 学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E mail henshu@jsidre.or.jp

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと思います。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

オフィス便りは、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術

力の向上」・「技術者倫理」など。

キャンパス便りは、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿ください。

原稿の長さは、刷り上げ 1 ページ (1,800 字程度) で、写真を 1 ~ 2 枚程度入れてください。

私の勤める本は、原稿の長さ：1,200 字 (写真・体裁等含む刷り上げ 1 ページ以内原稿には表紙の写真を含めて下さい)

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!

「水土の知 (農業土木学会誌)」平成 20 年秋季～冬季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成 20 年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。テーマは昨年と同様で「水利遺構：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」とします。

下記の要領で学会誌第 76 巻 (平成 20 年 1 ~ 12 月号) のうち、特に秋季～冬季の表紙写真を募集します。ふるってご応募ください。

記

1. 趣旨

これまで農業土木技術による構造物は、過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えてきました。これら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、それぞれの機能を十分に発揮しながら年月を重ねていくことで、水を制御するという力強さに、そして周囲の自然景観にとけ込むことで、その美しさに磨きがかかってくるようです。

先人たちが遺してくれた多くの構造物の中には、かけがえのない風景を生み出す文化遺産とも言うべき名高いものもあります

が、私たちが身近で目にする農村地域にも、規模は小さくとも凛として美しい文化的な技術遺構がいくつも存在しています。

みなさんの目にとまった構造物で、「先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」を学会誌の表紙写真でご紹介ください。

2. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで（デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFF モードに設定）撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は、その旨明記してください。

3. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

4. 締切 平成 19 年 3 月 30 日（秋季～冬季の写真）

5. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意ください。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる（花などの情緒物に埋没しない）、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してどっと崩れない、ことが採用の条件となります。

北海道支部講習会の開催について（第 2 報）

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



- 1. 期 日 平成 19 年 2 月 1 日（木）
- 2. 会 場 北海道大学学术交流会館
（札幌市北区北 8 条西 5 丁目，北大正門すぐ）
- 3. テーマ 「ポンプ場の設計，農業農村整備事業における環境調和と景観配慮」（仮題）
- 4. 参加申込
下記様式により，メール，FAX または郵送にてお申込下さい。
参加申込みの締切は，平成 19 年 1 月 26 日（金）です。
〒060 8589 北海道大学農学部農業工学科内

農業土木学会北海道支部事務局
担当：柏木淳一 E-mail：kashi@env.agr.hokudai.ac.jp
☎011 706 3641 FAX 011 706 4145

所属機関 _____
同上所在地 _____
申込代表者 _____ TEL _____

氏名	所属	備考

第 30 回関東支部地方講習会および平成 18 年度支部研修会の開催について

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



- 1. 課 題
 - (1) 地方講習会：土地改良事業計画設計基準・設計「ポンプ場」の改定について
 - (2) 支部研修会：植物による環境修復（ファイトレメディエーション技術開発の現状と今後の展望）
- 2. 開催日時及び場所
 - (1) 日 時 平成 19 年 1 月 31 日（水）
10：40～16：00（受付 10：00～10：30）
 - (2) 場 所
埼玉県さいたま市浦和区高砂 3 丁目 12 24
埼玉教育会館 201・202 会議室
☎048 832 2551 FAX 048 832 2401
 - (3) 定 員 150 名
- 3. プログラム（案）
 - 【地方講習会】
 - 10：00～10：30 受付
 - 10：40～10：50 開会あいさつ
 - 10：50～12：00 土地改良事業計画設計基準・設計「ポンプ場」改定の解説

関東農政局土地改良技術事務所
建設技術課設計技術第 1 係長 小倉 恒男
(12：00～13：00 昼食)
13：00～14：00 土地改良事業計画設計基準・設計「ポンプ場」改定の解説
農村振興局整備部設計課
施工企画調整室機械係長 浦野 善久
(14：00～14：15 休憩)
【支部研修会】
14：15～15：45 植物による環境修復（ファイトレメディエーション技術開発の現状と今後の展望）
日本大学生物資源科学部農芸化学科教授
長谷川 功
15：50～16：00 閉会あいさつ

4. 参加費用 会員 4,000 円，非会員 4,500 円

5. 申込方法
別紙申込様式により，平成 18 年 12 月 20 日（水）までに，所属機関毎に一括してお申込みください。
申込みと同時に参加費用を全額次の銀行口座まで振込んでくだ

14:15~15:15 「農業農村整備における設計 VE の手法と効果について」
(財)日本水士総合研究所主任研究員

高村 浩彰

15:15 閉会挨拶

北陸農政局整備部設計課長

4. 参加費 4,000円

5. 申込方法

(1) 申込期限 平成18年12月22日(金)

(2) 参加費納入方法

参加申込と同時に指定の銀行口座に全額前納して下さい。

なお、振込後の取り消しについては、参加費の返還ができませんのでご注意願います。

振込手数料については、振込人負担をお願いします。

【振込先】銀行名 北国銀行 香林坊支店

口座番号 普通 275554

口座名 農業土木学会京都支部金沢事務局

吉田 弘明

(3) 申込様式

平成18年度農業土木学会京都支部研修会・地方講習会参加申込書

所属機関

所在地

電話番号

FAX番号

連絡者名

所属	氏名	CPD 会員番号

合計 名 × 4,000円 = 円

農業土木技術者継続教育機構会員(CPD)の方は、会員番号を記入して下さい。

(4) 参加申込先

北陸農政局整備部設計課(酒井, 吉田, 内田)

〒920 8566 石川県金沢市広坂2-2-60

☎076 263 2161 FAX 076 234 8051

E-mail: atsushi_uchida@hokuriku.maff.go.jp

6. 宿泊・昼食

宿泊・昼食の斡旋・手配は行いませんので、各自で申込等対応願います。

第44回材料施工研究部会シンポジウムの開催について(第2報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 主催 農業土木学会材料施工研究部会

2. テーマ 土地改良施設の非破壊検査・調査と試験

3. キーワード 土地改良施設, 非破壊検査, 非破壊調査, 非破壊試験, 機能診断

4. 期日 平成19年2月2日(金) 9:50~17:00

5. 会場 兵庫県中央労働センター 大ホール(210~320席)

〒650 0011 神戸市中央区下山手通6丁目3-28

☎078 341 2271 FAX 078 341 7332

<http://www.hyogo-chuoroudo-center.jp/>

6. プログラム 司会:未定

I. 開会式 9:50~10:00

II. 材料施工研究部会研究奨励賞授与式 10:00~10:30

選考経過・業績内容説明 服部九二雄(表彰委員会委員長)
表彰状授与 田中 勉(材料施工研究部会長)

III. 講演発表 10:30~15:45

<基調講演> 10:30~11:30

10:30~ コンクリート構造物の非破壊試験の動向と展開

熊本大学大学院自然科学研究科教授 大津 政康

<土構造物の非破壊検査と調査・試験> 12:30~14:00

12:30~ (1) 地盤・土構造物の原位置非破壊振動実験(仮)

岐阜大学応用生物科学部教授 清水 英良

13:00~ (2) 電磁気を用いた土構造物の非破壊調査

農村工学研究所主任研究員 森 充広

13:30~ (3) 弾性波および電磁波を用いた土構造物の非破壊検査
京都大学大学院農学研究科助教授 小林 晃
<コンクリート構造物または管路の非破壊検査と調査・試験>

14:15~15:45

14:15~ (4) AE法に基づく老朽化配管施設の損傷度評価法の開発(仮)

日本大学生物資源科学部助手 鈴木 哲也

14:45~ (5) 反射法と共振法の併用による埋設PC管の劣化調査とその運用

三協エンジニアリング株式会社 茨田 匠

サンコーコンサルタント株式会社 吉村 睦

15:15~ (6) コンクリート製水路の非破壊試験による凍害診断
鳥取大学農学部助教授 緒方 英彦

IV. パネルディスカッション 16:00~17:00

コーディネーター:未定

7. 参加費 4,000円 当日受付で徴収させていただきます。

8. 申込 参加者氏名, 所属機関名, 所在地住所, TEL, FAX, E-mail, 弁当(代金¥1000)希望の有・無, をお書きの上, FAXもしくはE-mailにてお申込み下さい。また, 表題として, 「材料施工研究部会シンポジウムの参加」と明記して下さい。

9. 申込先 〒657 8501 神戸市灘区六甲台町1 神戸大学農学部
 気付 材料施工研究部会事務局
 申込み担当者: 井上 一哉
 TEL&FAX: 078 803 5853

E-mail: mornel@kobe-u.ac.jp

10. 申込締切 平成19年1月19日(金)

11. 宿泊 各自で手配下さい。

12. 問合せ先 申込先と同じです。

岡山大学「環境科学技術シンポジウム2007」

日時: 平成19年1月19日(金)

会場: 岡山大学大学院自然科学研究科・環境学研究科大会議室

申込: <http://www.sswmss.jp/delegate/07-01-19.html> または,
 Fax: 086 251 8857 よりお申込み下さい[申込み締切り:
 平成18年12月28日(木)]

参加費: 無料

主催: 21世紀COE「循環型社会への戦略的廃棄物マネジメント」, 岡山大学廃棄物マネジメント研究センター

共催: 岡山工学振興会

後援(予定): 廃棄物学会, 土木学会中国支部, 日本材料学会中国支部, 日本コンクリート工学協会中国支部, 地盤工学会, 化学工学会中国四国支部, 岡山地区化学工学懇話会, プラスチック化学リサイクル研究会, 日本化学会中国四国支部, 高分子学会中国四国支部, 岡山高分子懇話会, 日本水環境学会, 環境科学会, 農業土木学会中国四国支部, 岡山市エコ技術研究会

プログラム

9:30~9:40

開会/中筋房夫(岡山大学廃棄物マネジメント研究センター長)

9:50~12:00

国際セッション Environmental Issues of World Major River Basin

[A会場]

環境・廃棄物マネジメントへのデータ活用

オーガナイザー: 阿部宏史(環境学研究科教授)

水藤 寛(環境学研究科助教授)

環境に配慮した素材の開発(1)

オーガナイザー: 木村邦生(環境学研究科教授)

三宅通博(環境学研究科教授)

環境に配慮した素材の開発(2)

オーガナイザー: 笹岡英司(環境学研究科教授)

吉澤秀和(環境学研究科教授)

[B会場]

感染症

オーガナイザー: 小野芳朗(環境学研究科教授)

山本秀樹(環境学研究科助教授)

循環資源活用方策と3R技術

オーガナイザー: 綾野克紀(環境学研究科助教授)

岩田 徹(環境学研究科講師)

有害化学物質の生態環境影響と浄化技術

オーガナイザー: 村上 章(環境学研究科教授)

河原長美(環境学研究科教授)

問合せ: 〒700 8530 岡山市津島中3 1 1 岡山大学環境理工学部
 内

21世紀COE「循環型社会への戦略的廃棄物マネジメント」事務局(担当: 小橋)

☎086 251 8857, E-mail: secretary@sswmss.jp

参考リンク <http://www.sswmss.jp/delegate/07-01-19.html>